



膜協だより No. 36

—2014.05—

[発行] 一般社団法人日本膜構造協会

■『平成 26 年度通常総会』が開催されました

一般社団法人日本膜構造協会（会長：石井 一夫・横浜国立大学名誉教授、会員数：137）は、平成 26 年 5 月 23 日「平成 26 年度通常総会」を東京・文京区の「東京ガーデンパレス」で開催しました。

今回、総会に提出された議案は、「平成 25 年度事業報告及び決算報告の承認」、「会員規則の改正」「役員の変更」の 4 議案で、原案どおり議決されました。このうち「役員の変更」については、株式会社日刊建設通信新聞社副社長の前田哲治氏が退任し、役員は理事 14 名、監事 2 名となり、残る全員が再選されました。なお、総会后に臨時理事会を開催して、会長・代表理事に石井一夫氏、副会長に能村光太郎氏、専務理事に宇都宮啓史氏を選定しました。



会場を別室に移し懇親会に移り、石井会長からは次のような挨拶がありました。

『平成 26 年度 通常総会の懇親会の開催に当り、一言ご挨拶申し上げます。先ほどは、通常総会におけるご審議、誠にありがとうございました。引き続き、会長の職を勤めることとなりました。どうぞ宜しくお願いいたします。』

本日は、建築基準法改正の国会審議等公務ご多忙のところ、国土交通省より建築物防災対策室長 石崎和志様にご出席をいただいております。日頃よりご指導、ご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、東京オリンピックの準備も始まり、また、経済も回復基調にあります。この機をとらえ、協会としても膜構造の一層の普及に努力していかなければならないと考えております。

この中で、膜構造用フィルム EFTE の告示化につきましては、国土交通省おかれましては大変お忙しいとは存じますが、一日も早い実現を期待しております。

今後とも協会としては、会員から期待される広範な活動、また行政代行的業務等を着実に実施するとともに、我が国における膜構造に関する中核的団体としてストックの維持保全を含めて「安全・安心で魅力ある空間創造」に貢献する膜構造の整備に寄与する活動に一層努力して参る所存です。今後とも、協会の運営に対する一層のご支援ご協力のほどをお願い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。』

続いて、来賓としてお越しの国土交通省 石崎和志様から次のようなご挨拶を頂戴しました。

『平成 26 年度定期総会の開催、おめでとうございます。日頃より、建築行政、住宅行政にご協力をいただき厚く御礼申し上げます。私共の役割は「建築物の安全・安心」を推進することです。膜構造はまさにこれに叶った軽くて丈夫な構造ではないかと思っています。一方、先の雪害に際して雪荷重についての対応をする役目を担

っています。また、東日本大震災で多くの天井が崩落したことから、天井の安全性を確保するための基準化をいたしました。軽い天井とするか、又は重いものならししっかり作る方法を告示化しました。これからは、特に接合部の技術開発や落ちても大丈夫となるような新技術の開発にご協力いただきますようお願いいたします。さて、今国会の衆議院へのお願いは、福岡での火災に対応して定期報告制度の見直しや迅速な建築確認を行うための適判制度の見直し、更には旧 38 条のような制度を設けることを提案しています。旧 38 条は基準が不明確なところもありましたので、この点を改めまして、新たに開発された技術を実現できるようにしたいと思っています。膜協におかれましても技術開発に御努力を頂きご協力をお願いしたいと思います。本日は、膜協の総会の懇親会にお招きいただきまして、ありがとうございました。』



続いて乾杯の音頭を、**能村光太郎副会長**（太陽工業株式会社代表取締役社長）より『無事、平成 26 年度の総会が終了しました。先ほどの石井会長から、膜構造について何か新しいことをしたい、という力強いご発言を頂きましたので、一体何が起こるのか楽しみにしようと思っています。』とのご挨拶を頂戴し賑やかな懇親会が始まりました。

なお、懇親会の終盤に『**2013 年度膜構造研究論文特別賞授与式**』が開かれ、**東北大学の植松 康 教授**の『独立上屋等の膜構造建築物の設計用風荷重に関する一連の研究』の論文に対して研究論文特別賞が贈呈されました。



その後、**中興化成工業株式会社の小宮陣一理事**により中締めが行われ、賑やかな宴もお開きになりました。



午後 2 時から、恒例の**記念講演会**があり、**日本建築士会連合会会長の三井所清典様**(㈱アルセッド建築研究所 代表取締役)から『建築士が取り組む木造と膜屋根の魅力』と題して、主に今まで手がけられた膜構造の建築物についてのよもやま話を拝聴しました。膜屋根を導入する際には、膜の持つ透光性に着目して夜間での都市空間に対して建築物の存在感を際立たせるように企画したり、木造の設計においては地元の設計士や大工さんでも参画できる設計を目指して企画・立案するよう心掛けられている。』など興味深いご講演を頂戴しました。

こうして、午後 3 時 30 分に全ての予定を終了し、散会しました。会員の皆様のご理解とご協力により滞りなく盛大な行事となりましたことに、深く感謝いたします。また、所用等でご出席いただけなかった会員の皆様におかれましては、次回は万障お繰り合わせのうえ、是非ご出席いただきますようお願いいたします。

